

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム 陽光の家

作成日: 平成 30年 12月 17日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28	その時々状況や要望に応じた柔軟な対応により利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいく。	精神的に不安になり、体調の変化を訴えてくる時には話を傾聴し、安心して頂けるようにゆっくりと対応する。	訴えの時は、その方の訴えにきちんと安心できる話をする。	12ヶ月
2	7	虐待防止の徹底について、管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされる事がないように注意を払い、防止に努める。	身体的、言葉の拘束には管理者及び職員全員で意識合ってその都度注意指導し合う様に徹底していく。	身体拘束について該当する内容の職員への周知徹底を行う。今後、身体拘束の詳細について研修や勉強会へ参加するなど、職員の知識習得に努力していく。	12ヶ月
3	43	排泄の自立支援について、排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を生かしてトイレでの排泄・排便の自立に向けた支援を行っていく。	誘導・声かけにて食事前後に行くようにする。本人の状態を観察して声かけをするように努める。	共同トイレで排泄する入居者が多くほぼ自立されている。ポータブルを利用している入居者についても家族より出来るだけ歩いて欲しいとの要望があり、自立支援の立場から出来る限り対応するように努める。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。